

書籍案内

争族図鑑

相続で崩壊する家族39パターン

相続診断協会代表理事

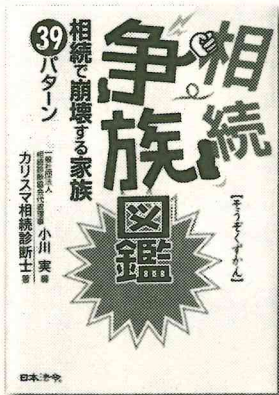
小川実 編

日本法令

本書の冒頭、父の暴力から逃れるため実家を離れていた長男と、実家に残ったふたり(母と長女)が、父の相続をきっかけに争う事例が紹介される。この家族は結局、長男のみならず、母と長女までもが仲たがいでしまったという。

本書に掲載されている39事例は、相続問題に関する啓もう活動を行う税理士、弁護士、行政書士、ファイナンシャルプランナーら28人が実際に体験したものの。冒頭で紹介される仲たがいになった家族の話は相続診断協会代表の小川実税理士が関わった相続案件だという。この失敗をきっかけにして、自分の税理士人生のミッションに「争族を減らすこと」を加えたと語る。

相続税の基礎控除額引き下げによって課税対象者が格段に増えたが、それでも相続税の課税対象者は12人に1人であり、大半の人はまだ相続に対する危機意識が薄いことに本書は警鐘を鳴らす。相続税がかからなくても争族の危険があることを踏まえ、「笑顔相続」の普及の必要性を説いている。



2100円
(税別)